

基準口腔内写真を用いた介護職従事者による要介護者の口腔清掃度判定

高柳 篤史^{1, 6)}, 平井 基之^{2, 3)}, 市原 雅也^{2, 4)}, 遠藤 眞美^{5, 6)}

Evaluation of oral hygiene level for the dependent elderly by caregivers using standard photographs in oral cavity

Atsushi Takayanagi^{1, 6)}, Motoyuki Hirai^{2, 3)}, Masaya Ichihara^{2, 4)}, Mami Endoh^{5, 6)}

¹⁾ 高柳歯科医院, ²⁾ 池袋えびすの郷, ³⁾ 平井歯科医院, ⁴⁾ 市原歯科医院

⁵⁾ 日本大学松戸歯学部障害者歯科学講座, ⁶⁾ 深井保健科学研究所

キーワード：口腔ケア、口腔清掃状態、口腔内写真

目 的

要介護者に対し、歯科専門家による口腔ケアを実施することにより、口腔機能の維持、改善だけでなく、発熱や肺炎の発症の予防に繋がるなど、口腔をきれいな状態に保つことの重要性が明らかになってきている¹⁻³⁾。しかしながら、介護の現場では、マンパワーの不足などの問題から、歯科専門家による十分な口腔ケアが実施できているとは言えない。そのため、本来、口腔ケアが必要な要介護者であっても、口腔ケアが実施されていないことも少なくない。そこで、介護職従事者が日常の介護の中で、要介護者の口腔状態を評価し、必要に応じて歯科専門家に依頼することで、効率的にマンパワーを活用するなどして、より、多くの口腔ケアが必要な要介護者に対し、ケアを行うことができるようにすることが求められる。

一方、口腔は直視することができる器官であり、その所見から口腔清掃状態を評価することが可能であるが、日常的に見慣れていないと、口腔内の

状態を的確に評価することが難しい。そこで今回、介護職従事者が口腔内清掃状態の評価をよりの確に行えるように、モデルスケールとなる基準口腔内写真を予め選定し、それらの口腔内写真と比較しながら、口腔清掃度判定を行う方法で口腔清掃度を評価し、基準口腔内写真を利用することの有効性を調べた。

方 法

82名の要介護者の口腔内写真（正面像）を9名の歯科専門家（歯科医および歯科衛生士）で、それぞれの所見を「きれい」「ふつう」「きたない」の3段階で判定した。そして、最も多くの歯科専門家によって判定された状態をそれぞれの口腔清掃状態とした。また、同様の判定を25名の介護職従事者により行い、歯科専門家による判定との一致率を調べた。その後、同じ介護職従事者に対し、基準となる多数歯残存、少数歯残存または無歯顎、義歯装着時の3枚ずつの「きれい」「ふつう」「きたない」の口腔内写真（図1から3）を提示し、それと比較しながら、再度、口腔内写真の口腔清掃度を判定し、歯科専門家との一致率を調べた。基準口腔内写真の使用の有無による専門家の判定の平均一致率の差の検定には、Wilcoxonの符号付順位検定を用いた。

【著者連絡先】

〒340-0115 埼玉県幸手市中3-14-4

高柳歯科医院

高柳篤史

TEL：0480-42-0270 FAX：0480-42-0270



図1 「きれい」の基準口腔内写真

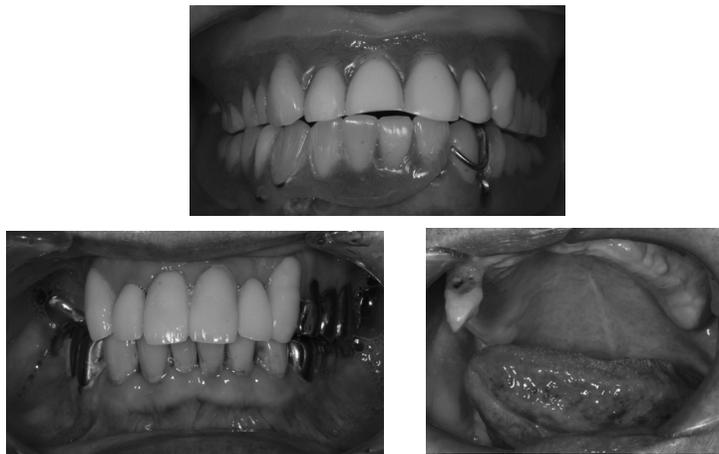


図2 「ふつう」の基準口腔内写真

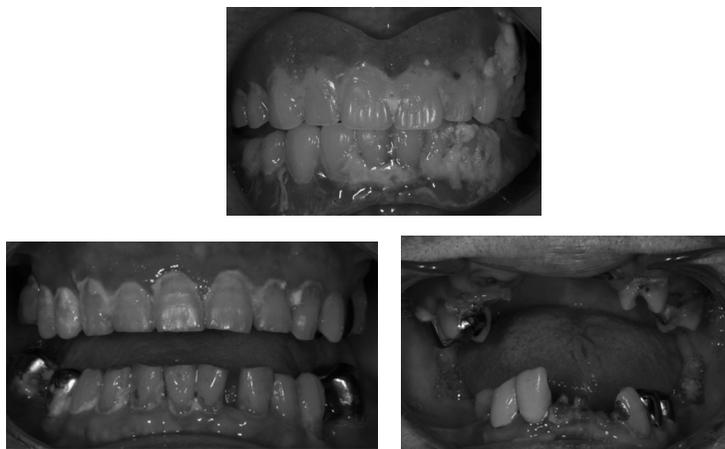


図3 「きたない」の基準口腔内写真

基準口腔内写真を用いた介護職従事者による要介護者の口腔清掃度判定

結果

今回用いた82名の口腔内写真の歯科専門家による判定は、「きれい」が28%、「ふつう」が34%、「きたない」が38%であった。一方、基準となる口腔内写真を示す前の介護職従事者においては、「きれい」が24%、「ふつう」が32%、「きたない」が44%であり、歯科専門家に比べて、介護職従事者の方が「きたない」と判定する者の割合が多かった。

基準口腔内写真使用の有無での介護職従事者による口腔清掃度判定の、歯科専門家との一致率の分布を図4に示した。基準口腔内写真を用いることで、一致率の分布は右方に偏位し、一致率が向上した。基準口腔内写真使用の有無での介護職従事者による口腔清掃度判定の、歯科医療従事者との平均一致率を表1に示した。口腔清掃度が「きれい」、および「全体」で有意に一致率が向上した。また、図5には歯科医療従事者および介護職従事者の判定結果の一覧を図示した。介護職従事者の判定は医療従事者の判定に比べてばらつきが大きい、基準口腔内写真を使用することで、ばらつきがやや減少した。

考察

口腔清掃状態の評価はこれまで、様々な指標^{4,5)}が用いられてきた。今回用いた指標が、これまで多く用いられてきた指標と異なるのは、歯科医療

表1 基準口腔内写真使用の有無での介護職従事者による口腔清掃度判定の歯科医療従事者との平均一致率

	未使用	使用
きれい	51.2%	61.5%*
ふつう	41.2%	47.7%
きたない	77.5%	79.4%
全体	56.7%	63.1%*

* $p < 0.05$

従事者でなくても簡便に評価できるという点である。歯科専門家でなくても利用できることで、口腔清掃状態の評価を多く実施することが可能となり、口腔清掃が十分でないことが認識されずに放置されている要介護高齢者を少なくすることができる。

今回の評価では、基準となる口腔内写真を用いているが、要介護高齢者の口腔内状況は、現在歯が20歯以上ある人から、無歯顎まで極めて多様な状態であり、基準となる写真の枚数も増やすことで、より正確な判定ができると考えられる。一方で、判定基準となる情報を増やすことで、判定がより煩雑になるため、介護の現場で利用するのに適した簡便さも保つ必要がある。

介護職従事者と歯科医療従事者による口腔の視

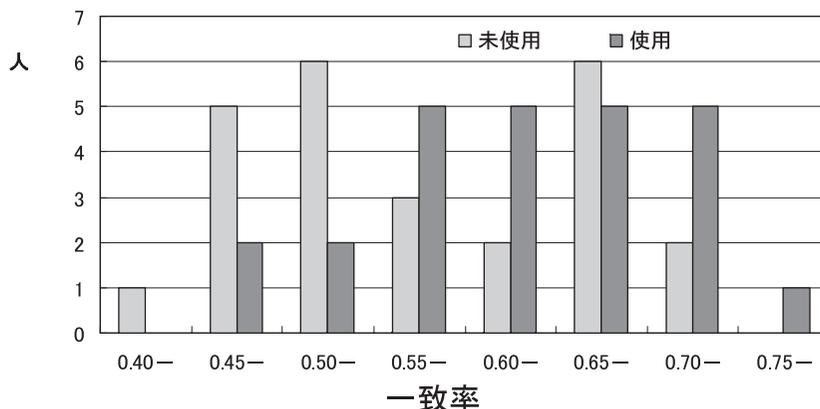


図4 基準口腔内写真使用の有無での介護職従事者による判定の一致率の分布

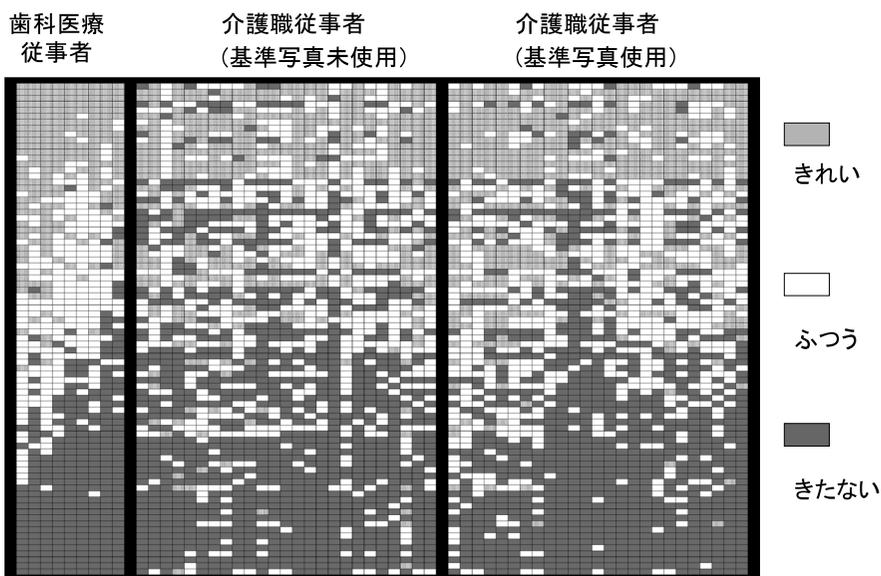


図5 歯科医療従事者および介護職従事者の口腔清掃度判定一覧
 (※縦が同一の判定者で、横が同一の口腔内写真による判定結果を示している)

診での判定は、特に「きたない」に分類された写真での一致率が高かったことは、専門的口腔ケアの必要な症例のスクリーニングに有効であると考えられる。一方で、実際には清掃状態が良好でないにもかかわらず、「ふつう」または「きれい」と判定されたケースがある。このような場合、口腔ケアが必要であるにもかかわらず、放置される可能性があり、今後、エラーがどのようなケースで認められるのかをさらに詳しく調べて、よりの確な判定をおこなうための基準写真の選択を検討するなどして、改善を行っていく必要があると考えられる。

結 論

介護職従事者に対し口腔内清掃度を判定するための基準写真を示すことで、要介護者の口腔清掃程度を歯科専門家による判定と近づけることができた。この方法を活用することで、介護職従事者による要介護者の口腔内清掃状況を容易に把握す

ることが可能であり、介護職従事者と歯科専門家とのより効率的な職種間連携を図る上で有効な方法であると考えられた。

文 献

- 1) 米山武義ほか：要介護高齢者に対する口腔衛生の誤嚥性肺炎予防効果に関する研究、日歯医学会誌、20、58-68、2001.
- 2) 足立三枝子ほか：歯科衛生士が行う専門的口腔ケアによる気道感染予防と要介護度の改善、老年歯科医学 22 (2)、83-89、2007.
- 3) 遠藤真美ほか：要介護高齢者の口腔粘膜に対する専門的口腔ケアの効果：口腔擦過細胞診による評価、障害者歯科、26 (1)、9-16、2005.
- 4) Gene JC, Vermillion JR :The Oral Hygiene Index. A method for classifying oral hygiene status. JADA, 61, 172-179, 1960.
- 5) Loe H, Silness J : Periodontal disease in pregnancy II . Correlation between oral hygiene and periodontal condition. Acta Odont Scand, 22,, 121-135, 1964.

Evaluation of oral hygiene level for the dependent elderly by caregivers using standard photographs in oral cavity

Atsushi Takayanagi^{1, 6)}, Motoyuki Hirai^{2, 3)}, Masaya Ichihara^{2, 4)}, Mami Endoh^{5, 6)}

¹⁾ Takayanagi Dental office

²⁾ Ikebukuro Ebisunosato

³⁾ Hirai Dental office

⁴⁾ Ichihara Dental office

⁵⁾ Department of Dentistry for the Disabled, Nippon University School of Dentistry at Matsudo

⁶⁾ Fukai Institute of Health Science

Key Words : oral care, oral hygiene level, Intr-oral photograph

We investigated utilities of using standard photograph as model scale for evaluation of oral hygiene level for the dependent elderly by caregivers. Standard photographs were selected by dental professionals. It was used three kinds of oral hygiene level “high”, “medium” and “low” as standard photographs respectively. Comparing oral cavity of dependent elderly with standard photographs, caregivers could evaluate oral hygiene level nearer to evaluate by dental professionals.

Health Science and Health Care 8 (1) : 14 – 18, 2008